

さわやかクラブ 連合会だより

第44号

令和5年3月1日発行

吉田町さわやかクラブ
連合会

(健康福祉センター内)
電話 0548 (34) 1800

人生百年時代を迎えて



吉田町さわやか
クラブ連合会
会長 岩根 政次

会員の皆様には、令和五年の新春を迎え、健やかに過ごしのこととお慶び申し上げます。

新型コロナウイルスも、昨年十月頃から第八波に突入、年末年始にかけて増加傾向にあります。

しかし、クラブの大半の会員の皆様には五回目の接種も終わり、少しはホッとされた日々を過ごされていることと思います。又、令和四年度の連合会行事や各種イベントも、コロナ感染に十分配慮しながら実施して頂き、残り三つの行事のみとなりましたこと、会員の皆様の取り組みに感謝申し上げます。

さて、私ごとではありますが本年九月五日で、昨今言われている人生百年時代の、第一歩を迎えることとなりますが、その前に今日までの、私の過去を振り返ってみたいと思います。

私は、吉田町に近いある小さな田舎で生まれました。当時は太平洋戦争中で、私は一〜二歳だったので、記憶はほとんどありませんが、空襲警報が鳴る度に母親の背中におぶさり防空壕に避難したと聞きました。その後、小学校・中学校・高校を卒業し、

希望していた営業職で大阪のM電器へ無事就職する事ができ、サラリーマン生活が始まりました。ところが入社後五年ごとに転勤があることがわかり、当時は随分と悩みましたが、最終的には現実を受け入れ、六十歳までに、七回の転勤を経験し、平成十五年に無事定年退職することが出来ました。しかし、当時を振り返ると苦難の連続でした。時代の変化や会社の方針等で、何度となく悩んだり、苦しんだりのさまざま環境を乗り越える度に、今の私が形成されてきた事を思うと、大変意義のある三十七年間のサラリーマン生活であった事に今は感謝しております。

それでは、本題に戻りますがサラリーマン時代が、私の第一の壁とすれば、これから迎える八十歳からの生き方が、第二の壁になるわけです。

大半の人達は、そこに壁があれば、恐らく何とか乗り越えようとするでしょう。

しかし、八十歳といえ、かつては「人生のゴール」と言われて来ましたが、ところが、昨今は「人生百年時代」と言われ、ゴールが、二十年も先になってしまいました。

高齢者の体力には、限界があります。無理をすればする程、間違いなく「心」と「体」に大きな負担となり、寿命を縮めることになるかもしれません。

「人生の幸せ」とは何か、答えは、人それぞれがうかもしれませんが、幸せを築く能力こそが「人生百年時代」を送る秘訣ではないでしょうか。



防災×地方創生

吉田町長 田村典彦

さわやかクラブの皆さま、明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

昨年の五月十四日に「駿河海岸防潮堤川尻工区及び大井川川尻地区河川防災ステーション完成式」を国土交通省と合同で挙行し、その式典に今は亡き安倍元総理が出席をしてくださったことは記憶に新しいところです。安倍元総理は、式典の祝辞の中で「こうした式典に出席するのは地元以外では初めてである」とおっしゃっていました。本当に名誉なことであると当時のことを思い出すたびに喜びをかみしめています。

平成二十三年三月十一日に東日本大震災が発生してから、今年で十二年の歳月が経ちます。「歳月人を待たず」ということわざがありますが、それは「歳月は人の都合などにかまひなく、刻々と過ぎ去っていく。時が経つのは速いか

ら、時間を無駄にしてはいけない」と人を戒めています。

万が一、南海トラフで東日本大震災級の巨大地震が起きた場合、「吉田町津波ハザードマップ」でお分かりのように当町の面積の四十一%が浸水し、そこに住む人は約一万人七千人、町民の五十五%にも達するという想定で、そのままの対策も講じなければ、当町は壊滅する状態にあります。

当町が強力に推し進めている津波防災まちづくりは、そうならないためのまちづくりに他ならず、安倍元総理のお考えと密接につながっています。そのお考えは、平成二十五年一月二十八日に行われた所信表明演説の中で「我が国にとって最大かつ喫緊の課題は経済の再生です。…これから提出する補正予算はその裏付けとなるものです。『復興・防災対策』『成長による富の創出』『暮らしの安全・

地域活性化』という三つを重点分野として、大胆な予算措置を講じます』とうたわれています。

この時の国の補正予算に、当町では防災安全交付金として県下三十五市町の総額のうち約七十一%に当たる二十一億三千八百万円を、地域の元気臨時交付金として県下三十五市町の総額のうち約十二%に当たる十五億八千九百八十四万円を計上していただきました。当町は、この交付金を活用して「命を守る対策」である十五基の津波避難タワー、十三本の避難道路、避難施設を備えたすみれ保育園、防災公園などを整備することができました。これらの町民の命を守る対策が完了したからこそ、このまちの津波防災まちづくりが安倍元総理が所信表明演説で掲げた三つの重点分野を横串に通じたものであることがご理解いただけるものと思えます。

『防災対策を講ずることにより確固たる安全を確保する。確固たる安全が確保された場で企業は安心して生産活動を営み、雇用が拡大して町が

ぎわう。町はその富を子育てや教育、健康づくりなどをサービスとして提供する。その結果、人々が集まり地域が活性化される』正に安倍元総理のお考えの図式そのものであり、そうであればこそ、防災対策の一丁目一番地は、「最善に期待する」ための「町民の財産・企業の生産活動をを守る」防潮堤、即ち川尻工区の防潮堤のように一〇〇〇年に一度の大津波を海岸で食い止める防潮堤の整備に他ならないのです。

現在、住吉海岸では国が粘り強い海岸堤防の補強に取り掛かっており、それが終わ

次第、川尻防潮堤と同じ海拔十一・八mの高さの防潮堤整備に取り掛かる予定と聞いていますので、住吉地区の皆さまにはもうしばらくお待ちくださいますようお願い申し上げます。残るは吉田漁港の津波対策や、太平橋までの大井川堤防と新坂口谷川橋までの坂口谷川堤防沿いの盛土が挙げられます。この全周防御の津波対策が完了する時、津波防災まちづくりのハード整備が終わりを告げ、安全な町を内外に宣明することができるようになると思っております。その日を夢見て本年も走り続けます。

私のボランティア活動

社会福祉法人
吉田町社会福祉協議会

会長 田島逸雄

さわやかクラブ連合会だより第四十四号の発刊おめでとうございます。

日頃、さわやかクラブの皆様には、社会福祉協議会の事業に、ご支援ご協力を賜り厚

くお礼申し上げます。今年もよろしくお願ひ申し上げます。

皆様の中にも、いろいろなボランティア活動をされている方がおられると思います。

ボランティア活動は、自分の得意なことや自分の時間や技能を自発的に社会や人々に役立て、自分も楽しみ、生き生きすることです。また、社会に役立つと同時に、活動場所や様々な人たちとの出会いから「視野を広め、新しい自分を発見し、向上する」喜びもあります。また、自分自身の生きがいにもなります。

私も定年後、地域で自分に適したボランティアはないだろうか探していたところ、先輩から「コミカレ・ねっとわーく」略称「コミ・ね」との団体を紹介されました。コミュニティづくりには、先頭で引っ張る人、サポートする人、コーディネートする人、支えるなど、いわゆるリーダーが必要で、その「地域づくりの担い手となるコミュニティリーダー」の育成を目指し、静岡県コミュニティ推進協議会が「コミュニティカレッジ」を昭和五十五年から開設。ここから既に二千人以上が巣立ち、県内各地で活躍中です。「カレッジ」

修了者には、時代に即した知識の習得や、研鑽のための研

修会等も行っています。

この「コミュニティカレッジ」を受講、卒業した、メンバーで構成された団体が「コミ・ねっと」であります。「カレッジ」で得た知識と貴重な体験を、この団体の仲間の一員として活動したいと思いを加入しました。

活動は県内、東部・中部・西部の支部組織と、個々の地域での活動があります。また毎年六月に県総会と支部総会があります。

吉田支部は昭和五十五年度から活動を開始。現在は、会員十五名で活動しております。主な活動としては、毎月

の定例会、子どもの見守りや立哨、四地区（北区・片岡・住吉・川尻）の各地域で実施している「地域教育推進協議会」略称「地推協」の事業活動。「地推協」の目的は、「地域の子どもの地域ではぐくむ」の理念のもと、地域の各種団体や個人有志が集まり、子どもたちを健全に育成する活動に取り組んでいます。

また、四地区合同の事業。令和四年度は（茶摘み体験・夏休みを写そう・ファミ

リウォーク）等を実施。特に、各地区の地推協で実施している「通学合宿」は、子どもたちに大変人気があります。この合宿には、小学四年生から六年生が参加することが出来ます。合宿場所は、自治会館やお寺等で親から離れて二泊三日の共同生活を行います。合宿期間中は、家でも行っているゲームは禁止、またテレビも見られません。子どもたちには、大変窮屈なことかと思いますが、参加して得ることが沢山あり、友だちもたくさんでき、貴重な体験ができたことを皆、大変喜んでおります。

また親御さんから見ると、心配していたけど、今まで家では見られないような少し成長した様子を感じ、参加させて良かったとの意見が多く寄せられます。

しかし、この「通学合宿」も令和元年度に発症した新型コロナウイルス感染症以来、感染拡大防止のため、川尻地区は三年間この行事は実施しておりません。

これ以外の年間事業についても、コロナ禍の状況下であ

り、その都度感染状況を見極め、事業を実施しております。

私たち吉田支部は会員同士が楽しく継続してボランティア活動を行う為に、事業活動だけではなく、懇親会等の親睦行事を実施し、会員同士の絆を図っております。しかし、現在はコロナ禍の状況下であり、全ての親睦行事は中止。

まだまだコロナとの共存生活が継続しますが、子どもたちと、これからも楽しくボランティア活動を実践してまいります。

今や、人生百年時代と言われております。その長寿目的に向かって

「さわやかクラブ」の皆様ひとり一人が、健康づくり、友愛活動、奉仕活動等々に取り組むと共に、クラブの有効性を活かしフレイル予防に取り組む、互いに、各分野で楽しく活動をしていただきたいと存じます。

社協は「ともに支え合い、いつまでも住み慣れた地域で暮らせるまち」を基本理念に、地域福祉の推進に対する取り組みと、培ってきた地域とのつながりを活かし、地域福祉施策を実践してまいります。よろしくお願い申し上げます。

入院体験を書いてみた

北区晩会 中西達男

私は令和4年の11月に心房細動という病気でカテーテルアブレーションという手術を受けました。今はコロナで病院も大変でその時のことを少し書いてみました。私が入院した部屋は通路を挟んでベッド2台の4人部屋でマスクし

したりする、病室でのことは全部自分で対応し何でもやらなければならない。看護師さんが押し車にいろいろ載せて

ゴロゴロと音をたてて、体温と血圧を測りまたいろいろな質問があつて朝夕各部屋を毎日回ってくる、その時遠くの部屋で看護師さんに無理を言つてゐるような会話が興奮してだんだん大きな声で聞こえる、そしてその押し車が自分の部屋の4人を済まして右側へ行くところの部屋からか「お前は」「違うでしょ」とか、トイレかシャワー室からか「まだ早いまだ早いああ」とか毎回聞こえてくる、どうも認知症の人だと思われる。自分の部屋ではナースコールを押して小便が出たので取りに来てと言う人が斜め前にいます。これらのことは毎日です。斜め前の人は看護師さん2人来て大騒ぎで荷物をまとめて退院して行った車椅子の人でした。手術の日の朝、左の手に点滴、尿はホースで袋へ、そして寝たまま手術室へ、後は麻酔でぜんぜんわからない。帰って来たのもわからない。気がついたら足が動かないよ

うに縛つて寝ていた、痛みとかは何も無くよく寝ていたようです。その後お昼頃自由になつて次の朝また心電図とレントゲンを撮つてから入院以來始めて妻と逢い退院の説明を病棟の外で受けまして退院しました。妻は手術前の自分を見ていたり先生と逢つていて手術が終わつた後には「きれいに取れましたよ」などと話をしていたとのことでした。

コロナで病室の中には家族の面会もできず付き添いもできなくて、軽い認知症の人がいると病院と看護師さんは大変で車椅子の人にも付き添いも無いのでびっくりしました。コロナの為とはいえ看護師さんの仕事が多くてそのしわ寄せが患者にも当然あつて私のときにも傷は5ミリ位の2つですが少し血が止まらずナースコールで呼んだことがあるが「はい行きます」と返事はあるがなかなか来なかつた。今度入院してみても病気の時だけでは無く家族やしてみんなに迷惑をかける認知症のような病気になる生活をしなければと強くおもいました。

野菜づくりの楽しさ

北区富士見会 畠山 吉秋

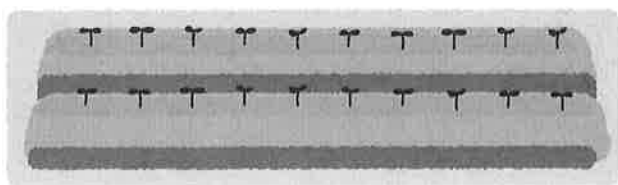
三年ほど前から憎いコロナ流行のため、出かけることが急に少なく思いついたのが野菜づくりでした。自宅前の庭を五坪ほど開こうし、コンクリートブロックを七十個余り

並べて、どうやら畑らしく作りました。先ず考えたことは無農薬野菜であること、虫に強いこと、更に簡単に作れることが目標でした。野菜づくりの苦労、楽しいことを述べてみます。

野菜名きぬさやとスナップえんどう。この二つはほぼ虫がつくことがないので素人向きの野菜のようです。十一月頃タネを蒔いて五センチぐらいのびたら苗が倒れないように添木をつけます。春になるときぬさやは赤い花、スナップえんどうは白い花をつけて五センチほどにのびて、六月頃が収穫です。ただ苗が根切り虫(白つぼくグロテスク)にやられることが多いの

で、タネを蒔く前に除去する必要があります。私はシャベルで丁寧に除いています。次は枝豆。これはすごく簡単できぬさやなどと大体同じですがタネ蒔きは春先、根切り虫退治は前と同じようにやればよいです。収穫は九月頃。終わりに小松菜、チンゲン菜。三月から十一月にかけて年蒔きでもいいかも知れませんが、私は小さなプランターに苗床を作つてタネを蒔いて苗を育ててから畑に移植してやっています。苗の間かくは十五センチ位、この野菜の葉は軟くて蝶が飛びまわつて葉にタマゴを産みつけるので大変困ります。そのため防虫用の網を作つて全体をかぶせておきます。そのほか菜葉(タネはむとし君)も作りますが、蝶対策をやればよいと思えます。やはり野菜を作つて楽しい

ことは予定通りに新芽が一齐に出た時、自家製野菜を晩酌時に食べる時、人にあげて喜んでもらうことです。野菜づくりには必ずほしいことは水と肥料を適度に与えることです。肥料は町衛生センターから無料でもらえます。また連作病(正規名称不詳)で苗がしおれてしまつて育ちません。石灰(苦土石灰)を時々まいて予防に努めています。素人野菜づくりですが今年も精出しやりたいと思つています。



八十歳になり想うこと

北区富士見会 良知和雄

まずは感謝です！この歳まで元気でいられたこと。

丈夫に育ててくれた親に感謝！何かと支えてくれて、妻に感謝！又、近所、友人等、まわりの人に恵まれた感謝！

これから先も、まわりの人に助けられ又、出来る事は助け合って、明るい気持ちで生きて行きたいです。

次に、少しでも吉田町のこの頃の状況を話します。十年、二十年前のこのあたり（北区、大幡地区）は夏は「田んぼ」

冬は「レタス畑」の、のどかな地域でした。近年は大型

スーパーやいろいろな商業施設が急に多く出来、大変便利になりました。

しかし、そのため車の往來が多くなり「事故に合わないよう気をつけよう、特に、子供の登下校と一旦停止！」が仲間内の合言葉です。

今後も若者、我々年寄りに希望もてる町になる事を願っている今日この頃です。

人生の友と歩む

片岡あかつき会 室井重正

私の趣味は詩吟である。最初の出会いは、会津地方の片田舎の小学校時代。運動会の昼のアトラクションで舞った白虎隊。「少年団結す白虎隊——」勇敢に戦い散った少年達。豆剣士が青空の下、勇壮

に舞う姿は、それはそれで良い思い出である。しかし私が興味を持ったのは剣舞よりも詩吟の方である。

本格的に始めたのは約四十年前社会人になってから。近くの公民館でおこなって

た詩吟教室に参加して。この時の指導者が尊敬する人格者で、かつ張りのある高音の吟声を響かせ、その時の感動が、今も詩吟を続けている原動力になっている。

詩吟の会派では、他の趣味の会と同様に数々の発表する機会がある。温習会、納吟会、各会派の記念大会等。私が所属している焼津の吟剣詩舞道連盟には、吟の会が六会派、舞の会が四会派あり大きな団体である。

毎年十月中旬に吟と剣詩舞の合同大会があり、今年で六十回となる。毎回出演するときは緊張するものであるが、良い刺激となっている。

発表の形式では、吟だけではなく、和歌や俳句、書道吟、華道吟、歌謡吟、ある特定のテーマで構成する構成吟などがあり特に剣舞や詩舞と吟の組み合わせは、見る人を幽玄の世界に導き大きな感動を与えている。

さて、吟で詠ずる漢詩には、絶句、律詩、新体詩がある。絶句は漢字四行で構成し、一行漢字五字の五言絶句、七字の七言絶句があり、律詩も同

様である。各行には平仄、行末には押韻の決まりがあり、作詩するには豊富な知識が必要である。

漢詩は中国唐の時代、李白、杜甫、杜牧などにより盛んに作られ、日本でも菅茶山、広瀬淡窓、頼山陽、徳川景山、最近では松口月城などにより、数多くの漢詩が作られている。

その内容も多岐にわたり、戦さ、四季、美しい風景、人生、茶と酒など様々な題材で、言葉は吟味し、景と情を組み合わせて豊かな感情を表現し、様々なテクニクを駆使して作品が作られている。そういう詩を吟ずるに当

たっては、作者の思い描いた詩心が十分に伝わるようにと次のことを心がけている。

一、詩文の意味を理解し、作者の感情に思いを巡らす。

一、その思いをイメージし、イメージしたその絵を自分が描いているように、主体的、能動的に吟ずる。

詩吟は、先賢の心情に触れ自分の感情を載せて表現し、また深い呼吸で健康増進が図れる。それがストレス発散となり、豊かな人生につながるものである。

今後とも詩吟を人生の友として続けていく所存である。

猫のお告げ

片岡あかつき会 塚本正雄

妊娠に気が慌てた私はすぐ病院に電話をします。「エッ子宮の切除ですか？（まだ間にあいますよ）わかりました」。受話器をおき、そんな事はさせないからねと傍に居た「マル」の頭を一つ撫でてやりました。

それから二ヶ月後、なんと五人の子供の誕生です。初めて見る生まれたての赤ちゃんです。以来生活は一変するもこの子達と格闘する日々が楽しく、私の新しい生きがいとなりました。然しながら彼等の成長と変化の著しさに私は

戸惑い出します。

季節も一廻りする頃になると自立心が芽生え、自分の居場所を主張するようになり、居場所を無くした子が一人、二人と出て行ってしまったのです。

元来一匹狼の彼等は群れる事をしません、親子仲良くいつまでもなんて有り得ないのです。

最初に居なくなったのは一番下の子で、尻尾が無いので「ナイ君」と呼んでいました。途方に暮れつつも日は流れ、ひと月位した時「今朝あの倉庫の近くで白い猫見たよ」と伝え聞き、早速次の朝行ってみると：いました、いました、まだ覚えていてくれて、すぐに抱き上げ家に連れ帰ります。でも居心地が良くないらしく、暫くするとこつちを振り返りつつも今来た道に戻って行きます。

幾度かそんな事を繰り返し、自然とその倉庫の裏側が暗黙の待ち合い場所となり、朝ここに来れば会えるからと、家に連れ戻すのは諦めました。その場所まで歩いて五分の所を車で出掛けていましたが、

その音に耳をそばだてる様子が気になり、ならば一念発起「歩いてみるか」と思い立ちます。

さて歩いてみますと、日の出前、暁の時、漂う空気のだならぬ爽やかさに心底感じ入りまして、今では遠廻りして二十分程のコースを歩いていきます。

朝の澄んだ空気の中を背筋をピンと伸ばし歩いて行くと、その倉庫が見えてきます。裏手に廻って見ると、ポツンと白いものが一つ、近づきつつ名前を呼ぶと解ってくれて、全身で「ゴロン、ゴロン」と

転げ回り喜び、出迎えてくれます。持参したゴハンをあげ、最後に「車に気をつけるんだよ」と言っつてその日はお別れです。

誰かが歳をとったら猫と暮らしなさいと言っていました。こんな事が習慣付き、一年余り経った今、フト立止まり自問して見る時、歩くなんて考えてもみなかった私がどうしちゃったんでしょう、どう

でもいい事です。B M I値とも範囲内に戻って来ました。自分には無い何かの力を今感じています。「クタバルナ」と(猫のお告げ)ですか？

私の心の駅よ、こつちまで

片岡睦会 福世 勇

上野はおいらの心の駅だ：：ならぬ、上吉田駅、私の心の駅だ：：と、思わず口

ずさんだ。私の社会人としてのスタートが、1958(昭和40)年の4月、始まった。いつも乗客の最終ランナーで電車に乗り、乗ると同時にドアが閉まる。駆け込んだ友達

と「間に合った！」と、その日が始まる。こんな状態で約7年ほど、通勤に上吉田駅を利用した。当時はホームの人が全員乗ってしまったも、

走ってくる人が見えると車掌さんは待つていてくれた。その駿遠線鉄道が、1971(昭和46)年になくなつて上

吉田駅がなくなつてとても寂しい気持ちではあるが、今だに上吉田駅の標示板だけは残っている。今年は鉄道開業150年とのことだが、最近の旅行は、ゆつくりとした旅がどこかへいつてしまった。私は旅行が好きで、昭和40年代は、夜行列車を利用し、目的地に到着して、駅のホームで顔を洗い、食事をして、その土地の定期遊覧バスで観光

私と旅行

川尻常盤会 久保田 磯 江

地を歩き、その土地のおいしいものを食べたり、郷土玩具(こけし)などを求めて旅を楽しむんだものだった。最近の旅は、豪華列車とか、新幹線を利用した旅が中心となり、列車から眺められる景色はアツという間に通りすぎていく。最近では、ローカル線に乗って駅弁を食べたりする風景はどこかに消えてしまったように思われる。

十五年前に年金旅行の仲間入りしました。九年前「秋田の男鹿半島」「角館武家屋敷」「中尊寺」を廻りました。どしゃ降りの雨の中、傘を

さしても濡れそうで、「どうしよう」と思い乍ら友達と暗い大きな杉並木の参道を歩いて、真黒なお堂に着きました。お堂の中は、金箔で覆われ、「皆金色」の「極楽浄土」だった。「やあすごい」と感動。それでも雨とバスの時間が気になり、しおりをもらい帰

りました。あの時の思い出は、黄金とどしゃ降りでした。つい最近テレビで、「中尊寺を中継して居て、懐かしく早速旅のメモ帳を開いて、

千二百年代の現存する唯一の創建遺構で、あの黄金の棺の中に、初代「藤原清衛公」二代「基衛公」三代「秀衛公」四代「泰衛公」もの遺体と首級が納められているとの事が分かりました。だけどこの人達

は何をしたのかしら？、無知な私が思つて居る内に、テレビに出て来たからびつくりです。

「鎌倉殿の13人」、頼朝と義経達と共に生きた人だった。

鞍馬寺から逃げ出した義経を秀衛が匿い、育て、義経と頼朝の対立が決定的になると、頼朝との決戦を覚悟する。秀衛の死後義経は四代の「泰衛公」の急襲に遭い自害したと伝わる。すごい世の中だったんだね。

東北道をバスで景色を見乍ら走るの最高です。

平泉に、義経と、弁慶の木造を安置している「弁慶堂」があるそうです。チャンスがあれば元気なうちに行つて見たいと思います。



集いの楽しさ

川尻山和会 原 崎 静 枝

吉田町には、さわやかクラブ連合会があり、私の住んでいる川尻地区は四つのグループに分かれ、その一つが山和会と言われ、会員数は二十八人で構成されています。毎月いこいの家を会場として午前十時〜十二時を目度として行います。会長様の司会で進められ、スローガンを皆さんで声を揃えて読み次に伴奏に合わせて山和会讃歌を歌います。会員の皆さんがよく知っている懐かしい歌も五〜六曲歌いますが、年令を重ねるとなかなか声が出にくくなりますので歌うことはとても良い刺激となります。会長様から会の運営報告や行事予定について説明があります。十二月は令和四年最後の月として、ビンゴゲームをして楽しみました。司会の方が番号を読みあげて下さると「あつた！」「あつた！」「私もう揃いました」とあちらこちらから和気あいあいの雰囲気で行う事が出来

ました。ごほうびに頂いた袋の中身をつこり見つめる姿にも、若返り高齢者の刺激となり、活動力の源となつて、とても良い事だと思えます。家の中でテレビのお守りしながらボンヤリと生活している私にとって、この山和会の集いから氣力を頂き、家に帰つても「さあ！今日も頑張らなければ」というファイトも湧いてきます。一日の反省を書く日記帳の表紙に私の大好きな言葉があります。
なせば成る なさねば成らぬ
何事も 成らぬは人の なさぬなりけり
こうして一日一日をなるべく変化のある日にしなければと思いつつも八十代半ばを過ぎるとなかなか思い通りにはいきません。背中が痛い腰が痛い…などと言つて、のんびりしている自分の姿に情けなく感じて仕方ありません。でもこの言葉のお陰で少しはやる気を起こします。私は山

和会へ入会させて頂き本当に良かったとつくづく思うこの頃です。

会員の皆様方がお元気で山

地球一周分完歩へリーチ

住吉五十鈴会 松 浦 久美男

地球一周四万km完歩にあと五百kmになりました。何とか自分が目標とした七五歳の時に達成できそうです。近年は一日平均四km。この距離は、年をとってきたことと足を痛めていること、さらには内臓疾患もあり、一度に歩き切るとは困難になつて来たためです。

した。地域に帰ればスポーツ少年団のバレーボールの指導者として、指導力の向上を目指してましたから。

思い起こせば四、五〇年前になりますが、身長一六六cm、体重六九kgの私は少々小太りで減量しなければと思つていました。又、このころ腰痛が持病となり、その腰痛も歩くと痛みが軽くなることも分かりました。

そんな中、ジョギングを始めたという同僚が、昼休みや勤務終了後走り、その彼から体調の改善の話を聞いたたびに「僕も走ってみようかな」と思うようになり、自宅付近を早朝ジョギングとして走り始めました。

入社当時、会社のレクレーションの一つに駅伝大会がありました。この世界は私には無縁の世界だと思つていま

走り始めると苦しいんですけど、楽しいんですね。走るスピードは速くなるし、距離は伸びるし、体重は減るし…。静岡・焼津・榛原等の市民マラソン大会の一〇kmの部にも何度か参加しました。

しかし、良いことは一時だけです。左足(膝)に痛みがくるようになり、ひどいとき

は足を引きづって通勤したこともありません。走ることは自分に不向きと考え、歩くことにしました。ただ歩くだけでは単調すぎて長続きはしないだろうと考え、大きな目標を持つことにしました。

その頃、健康維持のために一万歩歩くと良いと言われていました。万歩計も買ったたりして、目標として一日一時間半(約六km)歩くことにしました。そして一日六kmを地球一周四万kmを歩くこととすると一八年余(七五歳)には目標達成できると計算し、データを取り始めました。

取り始めたのは二〇〇四年一月一日からです。二〇二二年一二月で三九五〇〇km歩きました。誕生月の五月まで残り五〇〇kmを歩き切り、何とか目標とした地球一周分四万km完歩を達成できそうです。

この間、「歩いていてところを見たよ」の声を何人かの友人からいただきました。話題を作っているんだという思いと、励ましの言葉として受け止め現在に至っています。

ちなみに、現在の体重は五

三kg、(一六kg減)、身長は一六〇cm(六cm減)です。一五年前に胃がんで胃を半分切除したことが加齢で体は小さくなりました。

来し方行く末を思う

住吉五十鈴会 大石 利幸

私は、住吉上組町内会長を、退任と同時に上組の五十鈴会に加入しました。今から六十年と少し前の上組原風景は、とにかく静かな世界で未舗装の横須賀線を通る車が珍しくて見に出たものだ。今の中学校前の道も、のんびりと馬力が通る程度だった。私が小学校に入学する少し前、上水道が敷設され、二年生の時横須賀線の舗装が始まった。しかし上組の原風景が大きく変わったのは、統合中学校建設の瞬間と言っても過言ではないと思う。紺屋の先生(増田廣一氏)が教育長として統合中学校の設立に大きな役割を果たされ、現在の第二グラウンドまで含めて民家二戸とお菓師さんが移転したのみで建設が完了した。我家にある灰皿に「吉田中学校落成記念 昭

和三十九年十二月」と記されている。約八十戸の上組の中心に向かって毎日千二百人以上の生徒が登下校する。周辺に郵便局、総合体育館の建設、養鰻池跡地の宅地化進展もあり賑わいは格段に増した。町内会加入世帯数も私が物心付いた時代の六倍になった。こうなると危ぶまれるのが、町内会のまとまりだが、幸いに祭典を始めとした諸行事やイベント等に参入し易い雰囲気作りを各種団体が、役員中心に進めてくれており、いつの間にと思うほど、相互理解、団結が進んでおり、感心するのみである。

私の手元には、戦前からの町内会の「金銭出入帳」や祭典の収支報告等当時の町内会の活動内容を窺い知ることができる帳簿等がある程度揃っている。また上組の伝統ある祭典のお囃子が途絶しないように昭和三十二年に収録したテープと機器一式も町内会からの依頼で保管している。昭和十七年の金銭出入帳には、婦人会の竹槍訓練を指導した講師へのお礼とか時代を感じさせる事項が金額としてだけでなく日常生活を教えてくれている。またお囃子のテープは、大変貴重な音源だが六十年以上経過しており、再生を繰り返すことで劣化が進んだのか、太鼓の音は聞こえるが、笛の音色が小さくなっていた。すでにCD等で

「住吉の歴史」を知ろう

住吉白寿会 岸 端 政 之

昨年あるきっかけで住吉小学校の開校百二十周年記念日に住吉の地形や歴史についてお話をしてくださいと依頼され、資料などで知りえた薄い知識と私の勝手な推測を交えながら六年生の児童にお話ししました。

今回はその時話した内容を保存されているので良しとする事にした。しかし、よく調べたら六十五年前収録のテープの劣化より昨年八月古希を迎えた私の耳の劣化の方がよほど進んでおり、やむなく補聴器のお世話になることにした。その後、テープを聴いたら明治生れの三人の名人、当時の新進気鋭のメンバーの顔が一人一人浮ぶ様な素晴らしい演奏で感動物だった。私は、こうした資料の散逸を防ぐと共に有効活用をする活動を続けて地域の活性化のお手伝いができればと思う。

「住吉の地形」について

皆さん、住吉の地形は真つ平らで何も特徴がないと思っ
ていませんか。最近は大きな
道路ができたりして昔ほど
はつきりしませんがよく見ると、
例えば住吉神社から海に

向かってまっすぐ歩くと三回位の高い低いを繰り返していきます。私が子供のころ（昭和三十年代）はこの低い所は田んぼや畑で高くなった所に民家が密集していました。いつしかこの低い所も道路ができ民家が立ち高低差が分かりにくくなってしまいました。

この高低差はどのようにして出来上がったと思いますか。千年以上も昔から吉田は大井川の氾濫に悩まされてきました。氾濫によって海に押し流された大量の土砂は百年に一度くらいの大きな台風で陸に押し上げられました。これを繰り返しながら今の住吉ができたと思われまます。

「住吉の歴史」について

住吉といえば何と云っても「住吉神社」です。ところがこの住吉神社、道路沿いの石鳥居には「住吉神社」と書かれています。本殿には「片岡神社」と書かれています。これはなぜでしょう。諸説は色々ありますが、ここでは一つに絞ってお話します。千年以上の昔、吉田の古代人は今の能満寺から西の山之腰というあたりに住んでいました。

人々は田を耕し「片岡の神」を信仰していました。この神様は農業の神様です。ところが何百年もの昔に大井川の大洪水によって流されてしまいました。流された地が今の場所といわれています。その後神社は再建されますがこのあたりの人々の生業は漁業でした。そこで人々は漁業の神様「住吉の神」を祀るようになったと言われています。以来「片岡神社」と併せて「住吉神社」と呼ばれるようになります。住吉の地名は住吉神社からとったと思われまます。

ちなみに住吉で最も古い地域はどこだと思いますか。私は「東村」あたりと思つています。この一帯は周辺より高く住吉神社や永龍寺・呑海寺があり、住吉で最も古い家と言われている「岸端長兵衛家（屋号）」があるからです。長兵衛家は今から七百年以上前に船で湯日川河口から稲荷川を上って現在地に定着したと言われています。

以上簡単に説明してきましたが、少しでも多くの人が「住吉の地形や歴史」に関心を持つていただけたら幸いです。

「思いやり」

住吉白寿会 吉田 貢

オリンピックの開催を自国に誘致するためのセレモニーがありまました。各国の代表は色々工夫を凝らして売り込みました。日本代表は作戦の一つとして「おもてなし」をアピールし日本人の心を世界に訴えました。皆さんに受け入れて頂き、東京オリンピックの開催が決定したと思つています。

私ごとですが、定年後NP〇法人の団体に勤める事になりました。さまざまな障がいのある方々をサポートする事業（施設）です。人々との付き合いを重ねるなかで感じたものとして共通しているものは、相手を尊重する気持ちであると思つてます。「思いやり」の心です。これも日本人の誇れる心です。

再就職を決めかねている日々が過ぎる中である体験をしました。道端に数人の女性がおりその中で男性が倒れていました。そのまま通り過ぎ

ることが出来ず駆け寄り男性を抱きかかえました。近くにある病院に声を掛けましたがすでに受診した後らしく、先生は力なく首を横に振っていました。老人を離してその場を離れることが出来ず、下がっていく体温を感じながら親戚の人達が駆けつけるまでいました。

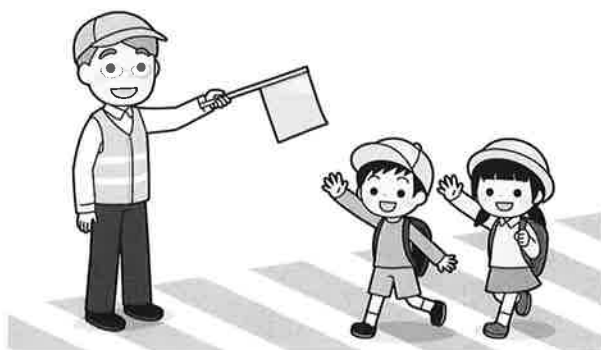
一部の高齢者に対し聞く事があります。「ガンコやなあ」「人の話しを聞かないなあ」「そんなに怒らんでも」等々です。生きてきた人生に自信を持つているからの姿ではないかと思つてもあります。

学童の送迎時での旗振りの奉仕や子供達と遊ぶ高齢者を良く見かけます。そこにはどちらも「思いやり」の心があり人と人とのつながりを感じます。

人と人とのつながりは無限です。地域のあつまりに参加したくさんの人達と話し合える機会をみつける。そして積極

的にコミュニケーション作りに係わっていく老後を見つきたいものです。

「思いやり」の心はいくつになっても持ち続けていきたいと思つてます。



心の窓を開いて下さい

住吉常磐会 亜紀

今何考えてるの

どうして歩むのやめてしまったのですか 後を振り向かないで歩いてごらん 苦しかった事は忘れる事にしましょう あなたの努力で……きつと素晴らしい未来が訪ずれてくると信じて下さい

胸を張って若者らしく何かに燃えてくれたら……ギラギラと輝く真夏の太陽のように……燃えつきても悔のない人生を早く探しあてて下さい あまり自分を 自分だけをいぢめないで下さい これからなんですよ あなたの人生は……

あなたの苦しみ分けて下さい コチコチと錆びつき始めた母さんの歯車では すべてを理解してあげられないかも知れないけれど 母さんの歯車に油をさして下さい そして心ゆくまで話し合いますそれが親子だと思います

真暗で何も見えないのです 扉をもう少しだけ開けて下さい 少しでもいいのです

あなたが苦しい時私達も同じです 淋しげな父さんの背中見たことありますか？ 目をそらさないでじっと見つめて下さい

自分の殻に閉じこもらないで心の窓を開いてごらん そこから一筋の光が差しこんでくると思います それなのに その糸口さえも見つけさせてくれないなんて……悲しすぎます

一人だけで考えないで下さい 少しでもいいのです 私達に教えて欲しいのです あなたの心の苦しみを……大きく深呼吸してみてもごらん 身も心も晴ればれとしましょう

あなたと旅に出たいのです そこには昔のままの澁瀬としたいあなたがいます

山がいいですが それとも海いきましようか 山びこが聞こえてきます

「オーイガンバレヨ……」 海なりが叶んでいます 「勇気を出せよ!!」

信じて下さい あなた自身を試して下さい あなたの持つ「力」のすべてを……

あなたが外に向って大きくはばたく時 私達は両手をあげて

バンザイ と叫ぶでしょう そんな日が一日も早くくる事を信じます

あなたは私に大切な事を教え

てくれました

人の心の悲しみを……

人の心のあわれさを……

人の弱さを分かちあげなければならぬ尊い『心』を……

ありがとうございます 本当ありがとうございます

明日もきつと日本晴れになる

と思います 雪をいただいた富士山が見えています

耳をすまして下さい 海なりが聞こえてくるでしょう

さあ勇気を出して

心の窓を開いてごらん

吾子ゆえに

足をいたわる君を見て

母を許せと叫ぶ心を

吉田町がすき

住吉西浜寿会 大村 千代子

むかし むかし 70年位前のことかな 祖母の家に大きな柿の木が 木の回りには菊の花が井戸もあり祖母は

近所の友達と日なたぼっこを楽しんで 又機械機でトントンカラリと緋の反物を出来上がると 母にこの柄はどうか

ねと そして自分の半天や前掛けに うれしそうでした。

品物が無い時に 私のお雛さまを 七五三の着物 ポック

リを心のこもった送り物 何回もお雛様を見た事を思い出したつけ。そして時代が変わ

り ちりめん細工を習い始めました。毎年千支の人形を作って 今年は うざぎ雛

晴れ着の うざぎちゃん雪ん子うざぎ えり巻きうざぎ 持ち物作りも 花 バッグ

細いです。うざぎちゃん10種類は作りました。ピョンピョンと友達の家にお嫁さんに行きます。

五月に町のシニアカレッジを卒業コロナで一年は休講でした。そして新陸旅行に 北

アルプス白馬村にオリンピックのジャンプ台 回りの景色

の美しさ グリーンシーズンの美しさが 学生さんの練習を多

くの人達が見守り 胸が熱く テレビで応援します。アルプ

スの美しさ川の流れ楽しく又桜の頃に行きたいです。八月

の夏祭り後 寿会の輪投げの練習が始まり スポーツが苦

手の私ですが時間があるので公会堂に出掛け二時間練習お

茶の時間も取り入れて 和氣
あいあいと順番が来ると ○
男ちゃん○子ちゃん はあい
と返事して 私は玉子屋玉子
です。輪が多くさん入ると算
数の時間です。すごい すごい
い今日はおかしいぞ キヤ
アーキヤアーアハハと笑い声
が家では ちゃん付けて呼ば
れないよ。町の大会で一位寿
会二位川尻です。県大会出場
です応援も寒い日ですが選手
と心ひとつになって感激の一
日を送りました。コロナで集
会の日が少なくても寿会は笑
いがたくさんあり 歌を口ず
さんだり西浜物語りをむかし
の事を語り歴史の勉強を ぜ
ひぜひ寿会にあつまりましよ
う。

先日孫の大学の吹奏楽団を
聞きに トロンボーンを演奏
する事で後方に並ぶので顔が
小さくて そしたらアンコー
ルになりトロンボーン七人が
前で演奏をクリスマスと正月
が舞い込んでうるると 思
えば 吉中生の時小山城の広
場で 吉田中学校は 体育系
が優勝するので 演奏をした
事がうれい思い出だったと
私も来年は八十才に コロナ

をうさぎさんがはね飛ばして
平和に町の匂を食べて海岸公
園を海の空気 山の空気を

悲しいこともあったけど元氣
にすごします。

「一九九四年の夏」

住吉松風会 田村俊治

一九九四年夏、とんでもな
く暑い夏である。今年の夏は
2組のカップルとカナダへ結
婚20周年記念というところで旅
行をすることにした。旅行前
日、初めての海外旅行の妻は
喜々面々としてパッキングに
精をだしていた。去年カナダ
へ旅行している私にとつては
ただ晴天を願うばかりである。

8月22日(月) 旅行当日で
ある。機内食がまずいと思い、
空港のスシヤで「いなりず
し」を買いこんでアメリカカン
航空128便サンノゼ行きへ
乗り、9時間機上の人となる。
午前11時ごろサンノゼ空港へ
到着。カリフォルニアの青い
空が私達を出迎えてくれる。
スカツとして気持ちの良い気
候である。トランジットでバ
ンクーバへむかう。機内で
たスナックが私の好物ブリト

ス(メキシコ料理)だったの
で、成田で買ったスシのこと
など忘れてしまっていた。み
んな長旅で疲れているようだ。
妻をのぞいてみると彼女はほ
んとうに楽しらしく、いつ
もの笑顔よりもっと大きな笑
顔を見せている。とにかく乗
り継ぎが面倒で大変、まー
チョットでも安く旅をしたい
からしかたがないけど。CP
578便でカルガリーへ。今
晩の夕食はホテルへ到着して
からの予定であるので、機内
でのスシを食べた。夕方19
時30分カルガリーへ到着。カ
ナイアンロッキー東の玄関
である。車でバンフへむかう。
みんなあまりの広さにボー然
としている。バンフへ近づい
てくると、切りたつた岩山川
が道路の両側にすばらしい風
景をつくってくれる。夜22時

にホテルへ到着。みな今夜泊
る「バンフスプリングスホテ
ル」のすばらしさにアゼンと
している。今日一日移動で疲
れていて食欲はそんなになく、
ホテル内のスシバーでスシを
食べる。みんなホツとして日
本のビール、お茶を飲んでい
る。明日起床6時30分、散歩
7時00分朝食8時00分とい

ことにして各自自分の部屋
へ行き旅の疲れをとる。いつ
もシャワーで済ませるが今夜
はバスタブへ湯をいっぱい入
れる。気持ちが良く眠りそう
になる。今日一日ほんとうに
お疲れ様でした。おやすみな
さい。明日へと続く。

故きを訪ねて

住吉松風会 戸塚敏雄

「温故知新」という言葉が
ある。広辞苑によれば「古き
物事を極めて、新しい知識や
見解を開くこと」とある。こ
の頃妙に気に入ってしまった
言葉である。

出すこととなり、断片的に、
しかも脈絡のない事柄に夢中
になつて收拾がつかないでい
る。

私が「戸塚」のルーツを知
りたい、と思い始めて約十年
になる。でも何も進まないで
いる。少しばかりルーツを調
べてみたが、分かつたのは
「戸塚」は横地・勝田氏の一
族であるということである。

横地・勝田氏の活躍した鎌
倉・室町・戦国時代を知ろう
とするといろんな方面に手を

しかし以前、藁原(ハリハ
ラ)塾の講師だった故中村肇
先生の言われた「社会科学は
一つひとつは分からなくても、
いつか必ず結びついて視野が
開け、分かるときがくるから
面白いですよ」の言葉を唯
一の拠りどころにしている。
最近、私は中村先生の言わ
れたことに実際に遭遇した。
これまで分からなかったB4
のプリント、端っこに「ふる

さとの会」と書かれたもので、十数年前にある先輩からいただいたものである。左記の「元禄十二年長谷川藤兵衛様ニ差上候村差出写書」という文書と「下吉田村の地図」である。それが何であるか、わかったのである。

元禄十二年長谷川藤兵衛様ニ差上候 村差出写書与

一 延宝三四卯辰両年

又々大井川下吉田村へ流込
岩留と申所水三年通り不残
川成仕候

一元禄申年迄井川山御用木岩
留川成跡へ流込下吉田村入
堀湊より御江戸廻し十ヶ年
相廻し申候

一 右御用木相廻し仕候湊揚
場式拾丁程惣百姓畑二切
起宝永三戌年御代官久保嶋
市兵衛様江御検分相願亥年
御年貢米七十五俵金上納仕
・・略・・下吉田村代々庄
屋三人持高田地屋敷被召上
三人共二御追放ニ被仰付候
・・以下略・・(地図・略)

以上の資料は、一九九一年に「ふるさとの会」の学習資料として配布されたものらし

く、これと同じものが吉田町教育委員会発行の『吉田町史 江戸時代その1』に掲載されていることが分かった。また、関連して同じく教育委員会発行の『ふるさと探訪』に「吉田港の前身入堀湊」と題して説明されていた。執筆者は高橋惣三郎さん。かつて「ふるさとの会」に関係していたらしいので出所が一致する。

この書付は、代官長谷川藤兵衛宛で、①約三三〇年前、大井川が岩留地区への流れ込み入堀湊をつくっていたこと

②元禄申年(一七〇四年)迄拾年間、紀伊国屋文左衛門が井川の御用木をこの入堀湊から江戸に送っていたこと③以降は、田畑の代替え地の要望や不正を働く庄屋三人の財産没収と追放を願ひ出ていることが書かれている。つまり戦

国時代から続いていた庄屋と百姓の力関係が変化してきていることが伺える。

私はかなり前であるが、何かの本で「井川山の木材が住吉浜から江戸に輸送された」という文言を見つけた。住吉

たという、「その住吉浜の場所はどこか」ずっと気になっていた。それがこの下吉田村入堀湊であった。「住吉浜」を提起してくれた本は『静岡県の歴史と文化』(第三号)であった。

紀伊国屋文左衛門は、井川・千頭・大間などで大量の木材を伐採し、五十万両ともいわれる利益を得たといわれる。執筆者の川崎文昭氏は、その論文の末尾に次のように書き記している。

・・・そのあとが五五〇〇本余の『切捨て木』であった。紀州ミカンを江戸に運送し、寛永寺の修復材木で大儲けをし、大成功者となったと伝えられる紀伊国屋は、山々に材木伐採の嵐を起し、その跡始末を現地に残して行くとは随分迷惑な話で、江戸時代版の乱開発者、資源略奪者というべきであろう」と。さもありません。とはいえ、この住吉浜がなぜ木材の積出湊になったのか、どんな賑わいだっただのか、想いめぐらしている。

世界の遺跡 (エジプト・ペルー)

住吉松風会 村田佳隆

一、エジプト

(一)ルクソールは地中海からナイル川の上流約八〇キロメートルにある古代エジプトの首都であった。ルクソールの王家の谷には現在まで国王(ファラオ)の墓が七十四発見されている(現在も墓探しは行われている)。その中で盗掘されていないのは、今から一〇〇年前、最後に発見された黄金のマスクで有名なツタンカーメンの墓だけである。その理由は、墓の規模が小さかったため後の国王の墓をツタンカーメンの墓の上に築いてしまったとのことだった。

た。最も大きいラムセス二世の墓は玄室に向かう通路は広く、素晴らしい壁画で飾られていた。ツタンカーメンの墓から発見された黄金のマスクには世界中がびっくりさせられたが、より規模の大きい立派な墓にはどれほどの財宝、副葬品が納められていたのかと想像させられます。

ツタンカーメンの黄金のマスクはカイロにあるエジプト考古学博物館に展示されている。

一九六五年に東京で展示された時は、約二九〇万人が見物に訪れ、一人数秒しか見ることができなかつたと言われているが、回りに誰もいない状態でじっくりと見ることができた。

(二)首都カイロの郊外のギザには巨大な三つのピラミッドが並んで建っている。今から四五〇〇年前に作られたという。最大はクフ王、次にカフラー王、そしてメンカウラー

王の順。クフ王のピラミッドは本来一四六メートルの高さだったが、現在は頂上部がなくなり一三七メートルになっている。

内部へは、九世紀に盗堀によって開けられた穴から入る。入場者が制限されている。巨大なピラミッドの内部に入ると、天井が高く広い空間に出た。ピラミッドの内部に驚かされた。内部の構造は複雑で、石棺の置かれている部屋以外は何のための空間か全くわからなかった。王の部屋にある石棺は入口よりも大きく、どうして中に入れることができたのかわかっていないそうだ。

二、ペルー

今から一〇〇年前に発見された天空の都市遺跡マチュピチュは標高二四〇〇メートルの高地にあり、インカ帝国（一二〇〇年から栄え、一五三三年にスペインによって滅された）時代に築かれたと言

われている。

マチュピチュまでの道は遠く、成田から空路ロスアンゼルス、そしてペルーの首都リマへ。リマから又空路でインカ帝国の首都だった世界遺産の都市クスコへ。クスコからは鉄道でマチュピチュ村へ、そこから専用のバスで遺跡の入口にやつと到着。いよいよ遺跡への入場である。入口でパスポートを見せて二〇分ほど登ると高台に出た。そこからの景色は旅行雑誌、観光パンフレットに乗っている景色そのものであった。正面には標高二六九三メートルのワイナピチュの山、それをバックに手前に広がるマチュピチュ遺跡はまさに天空の都市と呼ぶに相応しい佇まいをしていた。

高台を下り遺跡に入る。国王（遺跡の主）や王女の部屋、祈りをささげる場所、人々が生活をしていった部屋そして段々畑と完全に一つの町を形成していた。何よりも不思議なのは、水源が全く見当らないのに水路には常に水が流れていたことであった。マチュピチュは謎の遺跡である。誰が何の目的でここに町を作り、

どのような役割を果たし、生活をしていったのか。そして人々はこつぜん姿を消してしまったのか？。しかしインカ道とつながっていることで、インカ時代に築かれたことは確かである。

インカ帝国は一五三三年にスペインに滅された。現地ガイドの説明によると、スペインの兵士達は親善を装ってインカの国王に近づき、インカには無かったワインを大量に飲ませ、酔わせて殺害したとのことだった。

当時、インカには文化的価値の高い見事な金の装飾品があったが、価値のわからない兵士達はそれらを略奪して全てを溶かしてしまつたとのこと。従って現在のペルーにはインカ時代の金の装飾品はほとんど残っていないとのことだった。

ガイドの口振りから、ペルーの人達は五〇〇年前の出来事を忘れず、今もスペインには良い感情を持っていないと感じた。

このことから太平洋戦争から約八〇年、中国、韓国の反日感情は容易に消えることは

無いのではと思った。

俳句

住吉白寿会 武田白雲

鏡餅供えて孫を待ちうけり

屠蘇を飲み老いた二人で卒寿まで

初春に向い酒にて屠蘇を飲む

ウオキング焼津神社で健康を

俳句

住吉松風会 池ヶ谷正志

深き海駿河の初日波静か



さわやかクラブ短歌のつどい

片岡睦会 武田ハツ

突然に左腕動かさず戸惑いぬ動くが自然と思ひおりしが

卒寿こそ遂に吾にも巡りくる祝う写真の神妙なかお

堤防の雑木色づき晩秋の道ゆく人も忙しげになり

片岡あかつき会 藤田一男

空被う樟の若葉の透き間より零れ瞬く日影掌に受く

田水沸く青田に独り老農婦腰のぼしては田草取りゆく

境内の銀杏落葉の散り敷くを踏みしめ歩みぬ憚りつつも

※藤田一男様におかれましては、昨年十二月二十七日

にご逝去されました。三首の短歌は遺作として載せ

させていただきました。

ご冥福をお祈りします。

住吉大浜寿会 増田静代

埋み火をかき出すやうに過去たちのひとつひとつを

顧みる秋

西空に枇杷の実色の月の浮く老ゆれば光るものみな

魅力なり

弱みゆく心身といへ紺碧の空あれば飛ぶところの鳥は

住吉福寿会 鈴木森雄

君に贈る茜に光る薩摩芋わが半年の丹精込めて

玉葱を極早生・中生・最晩生・三種を植えて秋深まれり

君を葬る師走はじめの凍る朝残るわが身の健やかさ恥ず

ことしもお届けいたします。
生き生きと輝くころの紅き華、青き華、紫の華。そして天国へ召されたご高齢の歌人お一人への白き華への思いを込めて。

住吉松風会 橋田弘恵

人の世は泣いて笑って今日を生き明日なきことを誰

が知ろうか

揚げ繩にマグロに交じり鮫揚がる広いデッキで荒れ

狂う様

カラコロと郡上八幡下駄の音徹夜おどりの夜は更けゆく

夕まぐれ楠公の詩口ずさむ童子に帰る桜井の駅

友と来ておどる群上の盆おどり静かに暮れゆく古い

インド洋夜を徹した操業に水平線の朝日が眩し

住吉高砂会 久保田房子

安らかに天寿全う夫逝けり老々介護も無事に終われり

夕ぐれの時を待ち侘びひらく白木蔭にほのとゆふが

ほ妖し

七十年結婚祝の夫の額セピア色して我を見守る

ほたる火は霧の霰か立ちつくすころの襲に青く滲

みいる

振り返る二人の人生七十年夫見送りし年も暮れゆく

喧騒を通り抜ければ昏はやき京都寺町白き足袋ゆく

さわやかクラブ連合会 令和四年度の歩み

四月

六日 春の全国交通安全運動立哨

六日 理事会(毎月)

十二日 市町連合会会長及び事務

担当者会議(県老連)

十三日 役員会(毎月)

二十七

二十九

総会
みどりのオアシスマつりに参加

五月

六日 新旧交代会(代表者のみ)

十日 県若手委員会総会

六月

七日 新任会長研修会(焼津市)

十六日 議会傍聴

二十一日 カラオケまつり

七月

十一日 夏の交通安全県民運動立哨

八月

二十二日 スマートフォン講座

四日 レクレーションダンス・ミニ交流会

十二日 スマートフォン講座

二十七日 地域公共交通に係る住民

懇談会へ参加

二十八日 地域公共交通に係る住民

懇談会へ参加

九月

二十一日 秋の全国交通安全運動立哨

十月

二日 輪投げ大会(住吉小体育館)

原稿責任者 谷内幸子

十五日 G G大会(小山城)
ふれあい広場webでの
参加

二十四日 デジタルサポーター育成
講座

二十五日 スマートフォン講座

二十七 県老連GG大会(島田市)

台風十五号被害の義援金を静岡新聞社を通じて送金

十一月

四日 中部地区歴史探訪ウォーキング(焼津市)

十四日 県女性リーダー研修会(県老連)

十七日 カレー食事会

二十四日 理事役員研修

二十五日 理事役員研修

十二月

十五日 年末の交通安全運動立哨

十五日 県老連輪投大会(焼津市)

十九日 市町会長会議(県老連)

一月

五日 新年理事会

十六日 教養文化部会

二十日 若手委員会中部地域交流会

二十三日 教養文化部会

二月

二日 講演会

三日 中部地区女性リーダー交流会

三月

十五日 リフォーム作品・手作り
作品展示会

十六日 リフォーム作品・手作り
作品展示会

スポーツ

◎輪投げ大会(十月二日)

団体成績

優勝 住吉西浜寿会

二位 川尻常盤会

三位 住吉高砂会

四位 川尻陸会

五位 住吉大浜寿会

◎個人成績男子の部

優勝 井口 勝利(川尻常盤会)

二位 長谷川勇次(住吉西浜寿会)

三位 松本 進(川尻常盤会)

◎個人成績女子の部

優勝 石神 和子(住吉常盤会)

二位 滝井 保子(住吉西浜寿会)

三位 寺山 一美(住吉常盤会)

◎GG大会(十月十五日)

◎男性の部

優勝 福世 勇(片岡陸会)

二位 大滝 英夫(住吉福寿会)

三位 田中 義廣(住吉松風会)

四位 平井 清(住吉西浜寿会)

五位 福世 正義(住吉大浜寿会)

◎女子の部

優勝 木村 栄子(川尻山和会)

二位 山本富美江(北区暁会)

三位 内田 陽子(住吉福寿会)

四位 増田コサエ(川尻豊和会)

五位 野中かづ代(片岡あかつき会)



◎県老連GG大会(十月二十七日)

団体戦 吉田町優勝

個人戦

赤コート準優勝 石田美代子

白コート三位 福世 正義

青コート三位 野中 勝

青コート四位 平井 清

◎県老連輪投大会(十二月十五日)

団体戦

十七位 吉田町A

(住吉西浜寿会)

二十九位 吉田町B

(川尻常盤会)



県老連GG大会優勝報告



賞状・たて



輪投大会



輪投大会



輪投大会



輪投大会



グラウンドゴルフ大会



グラウンドゴルフ大会



グラウンドゴルフ大会



グラウンドゴルフ大会



総会



総会



歴史探訪ウォーキング



歴史探訪ウォーキング



カラオケまつり



カラオケまつり



カラオケまつり



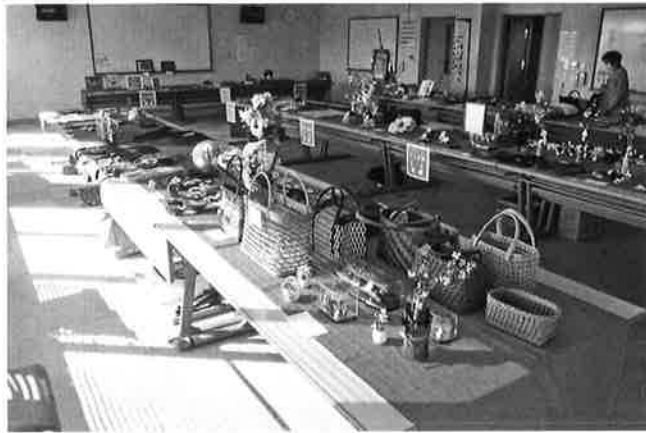
カラオケまつり



講演会



講演会



リフォーム手作り作品展



リフォーム手作り作品展



リフォーム手作り作品展



リフォーム手作り作品展

編集後記

本年度もたくさんの方の皆さまに寄稿していただき「連合会だより」第四十四号を発行することができました。会員役員の皆さまのご協力に感謝しお礼申し上げます。

本年度は二十八人の会員から寄稿していただきました。各クラブ一稿以上の寄稿をお願いした結果、昨年の十六人から大幅に増加したものと思われま

す。
昨年末に逝去された片岡あかつき会藤田一男様の原稿（短歌）につきましては、協議の結果遺稿として掲載させていただきます。

本年度も新型コロナウイルス感染拡大の影響により、連合会においては一部事業が中止となりましたが、ウィズコロナ（コロナウイルスとの共存・共生）の考えのもと、公共施設の使用をはじめ人々の行動も制限されることのない状況となっております。

ウィズコロナの時代は、各単位クラブの事業もそれぞれのクラブの責任において感染防止をしっかりとした上で行うこととなります。

来年度を見通すことはなかなか困難ですが、各クラブが知恵を出し、工夫をして活発に活動されることを祈念して編集後記と致します。

さわやかクラブ教養文化部

編集委員一同